

■ 簡易地震リスク診断報告書（レポート）【サンプル（イメージ）】

BS15130001

■ 総評

ご記入いただきましたチェックシートにもとづき、大成建設の総合地震防災システム及び耐震予備診断システムを用いて、次の通り簡易地震リスク診断を行いました。

- ・ 今後注意すべき地震として、東京湾北部地震があります。この地震による建物所在地の最大震度は5強と予測されます。また液状化のおそれは、低いと予測されます。
- ・ 対象建物は、比較的耐震性がある建築物と判断されます。ただし、現行の設計基準に基づいた設計にはなっていないので、耐震診断を行ない、建物の耐震性をより詳細に評価することをお勧めします。
- ・ 対象建物は、上記の地震において、中破の被害を受けるおそれがあります。

上記は簡易地震リスク診断の結果であり、耐震診断を行うことにより、建物の耐震性をより詳細に評価することができます。耐震診断を行った結果、耐震性が不足しているとされた場合には、耐震補強が必要となります。

また、建物の耐震性にかかわらず、建物内の家具、什器、天井などの非構造部材及び設備機器の地震対策も必要となります。

※ 簡易地震リスク診断から耐震補強までの流れは通常、下記ようになります。

簡易地震リスク診断（今回の診断）

↓

チェックシートに基づく定性的な予備診断。建物調査や図面に基づき構造計算は実施せず。

耐震診断

↓

建物調査および図面に基づき構造計算を実施し、耐震性能を定量的に評価する。

耐震補強（耐震性能が不足している場合）

耐震診断結果に基づき補強設計を行い、補強工事を実施する。

耐震診断をご希望される場合には、専門家や自治体にご相談ください。なお、当社でもご相談を受け付けております。また、自治体によっては助成制度を受けられる場合もございますので、所在地の市区町村にお問い合わせください。

BS15130001

■ 建物の耐震予備診断

□ 診断結果（大成建設 耐震予備診断システム）

比較的耐震性がある建築物と判断されます。ただし、現行の設計基準に基づいた設計にはなっていないので、耐震診断を行ない、建物の耐震性をより詳細に評価することをお勧めします。

□ 診断根拠

本建築物は1981年（昭和56年）5月以前の設計基準で設計されていると判断されます。当時の設計基準で設計された鉄骨造建築物は、現行の設計基準で設計された建築物と比較して、一般的に部材仕口や継手などの強度が小さく、また建築物全体の強度や変形性能が不足している傾向にあります。この時代に設計された鉄骨造建築物が全て耐震性に劣っている訳ではありませんが、1995年の阪神・淡路大震災では現在の設計基準を適用したものに比較して多くの被害が出ています。

耐震基準の変遷の解説

耐震基準は、過去の地震被害の教訓を踏まえて、1971年6月、1981年6月に改正されています。1981年6月に改正された現行基準では、それまで行われていなかった大地震時の耐震性の評価も行われるようになりました。阪神・淡路大震災においては、1981年6月以降に建設された建物の多くは大きな被害を受けていません。

BS15130001

■ 想定地震と震度・液状化情報

日本列島と周辺の海域には活断層やプレートの境界など地震を生じる可能性のある場所が多くあります。これらから生じる様々な地震のうち注意すべき地震を把握しておくことは重要です。ここでは、建物所在地域に強い揺れを生じ得る注意すべき地震を想定地震として選定し^{※1}、この想定地震による震度と液状化^{※2}危険度を評価しました。

建物所在地における想定地震として、「東京湾北部地震」を選定しました。

□ 想定地震 東京湾北部地震（マグニチュード7.3）

内閣府中央防災会議によって想定されている地震です。南関東においてマグニチュード7程度の地震が生じる確率は今後30年間で70%とされています。

広域図

□ 予測結果（大成建設 総合地震防災システム）

建物所在地の震度は5強と予測されます。周辺部の震度は5強から6弱です。液状化の可能性は低いと予測されます。但し、周辺部には液状化の可能性が高いと予想される場所もあります。

予測震度

所在地^{※2}

震度

- 震度6強以上
- 震度6弱
- 震度5強
- 震度5弱
- 震度4強以下

液状化の可能性

所在地^{※2}

液状化危険度

- 高い
- やや高い
- やや低い
- 低い

※1 想定地震を選定するための震源情報は文部科学省地震調査研究推進本部及び内閣府中央防災会議の公表資料に基づいています。これらの震源の中から、弊社の総合地震防災システムにより注意すべき地震を選定しました。

※2 図中の「所在地」は位置が多少ずれることがあります。

※3 液状化とは、地震の際に砂地盤等が振動により液体状になり、地表面に地下水が噴出して地盤が沈下したり、地中の構造物が浮き上がったりする現象です。

（注意事項）

※1. 当文書は、簡易地震リスク診断報告書（レポート）の一部サンプル（イメージ）であり、実際のものとは異なる場合がございます。

※2. 戸建住宅に関する簡易地震リスク診断報告書（レポート）につきましては、当該サンプルと内容が異なる場合がございます。